

京都府美山町出張報告（概要）

1. 期 間：平成 15 年 10 月 18 日（土）

2. 日 程：10 月 18 日（土）午後 ・意見交換会
・現地調査（自然文化村、伝統的建造物保存地区、
農産物販売所）

3. 参加者

委員	志賀 和人	筑波大学農林学系助教授
	武内 和彦	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
	中井 検裕	東京工業大学大学院社会理工学研究科教授
	三野 徹	京都大学大学院農学研究科教授
事務局	橋本 武	国土計画局計画官
	仲村 学	国土計画局総合計画課
	山下 功	国土計画局総合計画課
	平井 寧	国土計画局総合計画課

4. 意見交換会（概要）

- ・ 中山間地域は、行政が住民といかに踏ん張れるかが重要であり、集落の維持が決め手。美山町では56集落の内、1つも崩壊していない。美山町の町おこしは、集落をその気にさせるように働きかけ、集落が自ら動き出した結果である。まず、集落の環境整備を実施し集落を住みやすくすることから始めた。
- ・ 土地利用について計画を立て、山を下ろさない方策を立てた。植林が山から下りてくると、田畑、住居が陰になって、撤退に拍車がかかる。条件の悪いところを林地化し、それより内側は植林をしないことを地区の申し合わせとした。
- ・ 都市の人に来てもらうため、町としては、ありのままの姿でいることを目指した。美山町には、京都大学の原生林、そこから流れる西日本三大名水に選ばれたことがある川があった。伝統建造物保存は、森林から茅葺き集落まで全てをセットとし、人を呼び込もうということから始まった。
- ・ 茅葺き集落は、完全に観光地化してしまうと農家ではなくなり、所得格差が生じてしまう。美山村では、そのままの農家（+農家民宿）として保存している。
- ・ H5年から人口が社会増に転じており、都市住民の移住希望が多い。移住希望者には、集落が好きになること、美山町の計画に従うこと、しがらみに入り込むこと、を移住する条件としており、2年くらいかけて移住できるようにしている。また、移住者のために定住住宅用地を用意している。
- ・ 移住者の半分は定職を持っており、残りの半分の内、2～3割は町で働き口を斡旋している。町での働き口としては、町内の建設業などの企業や美山名水、森林組合等になるが、なかなか働き口は無い。
- ・ 都市交流に関しては、イベントだけでなく、リピーターとの接触・交流が大事である。
- ・ 冬期は積雪があり、観光客の入り込み落差が課題。最近では観光客が冬場も来てくれるようになり、冬と夏で、2：8が3：7の比率になりつつあるが、冬期は民宿に対して所得補償をしているのが実情。
- ・ 国としては、杓子定規ではなく、地方に出て実情を把握した上で、対応をして欲しい。農村の崩壊に対しての公共事業や、地域活性化のための公共投資などにより国土保全を行う、そのような取組をして欲しい。

5. 現地写真



自然文化村
(宿泊施設、キャンプ場がある自然体験施設)



伝統的建造物保存地区
(村全体で250戸の茅葺き屋根家屋がある)



定住住宅
(芸術家や退職者などが定住)



定住住宅地案内図
(敷地面積が約500m²/戸で農地も併存可能)



農産物販売所
(京都への国道沿いに立地し、京都からの車での来場が多い)